

## 第 21 回トウキョウサンショウウオ・シンポ

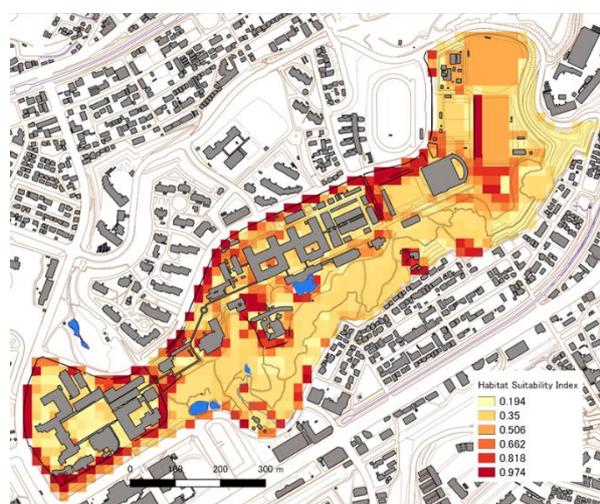
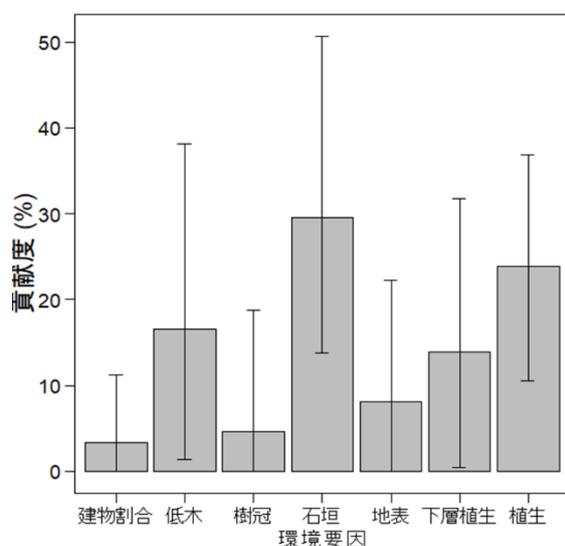
### 都市緑地に生息するヒガシニホントカゲの生活史と微生息環境選択

岸村真央 首都大・理工・生命科学



ヒガシニホントカゲ (*Plestiodon finitimus*) は、幼体と若いメスが持つ鮮やかな青色の尾が特徴で、人家の庭先などでも見ることのできる身近な爬虫類の一つである。その一方で、詳細な生態については不明な点も多く、特に生息に必要な環境についての十分な検討はなされていない。開発の進んだ都市部では、彼らの生息数は減少傾向にあり、今後生息に適した環境の保護が必要

とされる種でもある。今回の研究では、様々な環境がモザイク状に配置された都市部の孤立緑地において、ヒガシニホントカゲの空間分布と生息環境の関係を解析した。調査地を 20 m×20 m に区切ったメッシュの環境を調べ、種分布モデリング手法の一つ MaxEnt を用いて、各メッシュの生息適性値と環境要因の関係を解析した。



図：左は MaxEnt を用いて推定された生息適性値への貢献度。トカゲが好む環境は石垣や植栽された低木を含み、草本類がまばらに生えた草地環境であった。右は予測された各メッシュの生息適性値を表す。

さらに、2017年5月-11月、2018年3月-11月の2シーズンに行った標識再捕獲調査の結果と、指骨切片を用いた年齢推定の結果から、本調査地に生息するヒガシニホントカゲの生活史と個体群構造を明らかにし、その特徴について既存研究と比較した。